

年	組	名前
---	---	----

中津市本耶馬溪町の羅漢寺にある五百羅漢像が1360年に完成し、日本最古であることが別府大学の飯沼賢治教授の調査で確かめられた。制作年代を記した文書の原本は焼失しているが、東京大学史料編纂所で謄写本を発見した。

五百羅漢は日本最古

日本最古と分かった羅漢寺の五百羅漢像。中津市本耶馬溪町



本耶馬溪町の羅漢寺

の寺院とされてきた。ただ、1943年の火災で本堂が焼失し、裏付ける史料がなくなっていた。飯沼教授は地元研究者の依頼で、5年ほど前から調査を開始。石像の碑文などから南北朝時代の作と確信したという。古文書の写しを多数、保管する同史料編纂所で、羅漢寺の五百羅漢像について飯沼教授は「羅漢寺の五百羅漢の歴史的価値が証明されたと思う」と意義を強調。羅漢寺の次期住職に就任予定の太田英華さん(46)「久福寺住職」は「あらためて寺の歴史を感じており、さらに教えの意味を広める活動に力を入れていきたい」と話している。

五百羅漢は釈迦の500人の弟子たちで、釈迦の教えを広める役割を担った。次第に仏(神)格化され、仏画や彫刻などで表現されるようになった。羅漢寺の五百羅漢は1359年に寺を訪れた禅僧がわずか1年で作り、五百羅漢の信仰が形作られた最初の寺院とされている。国東半島の石の文化との連続性も見られる」と三谷紘平・市教委文化財課主任。文書の発見について飯沼教授は「羅漢寺の五百羅漢の歴史的価値が証明されたと思う」と意義を強調。羅漢寺の次期住職に就任予定の太田英華さん(46)「久福寺住職」は「あらためて寺の歴史を感じており、さらに教えの意味を広める活動に力を入れていきたい」と話している。

1360年に完成 東大で謄写本を発見

纂所で、羅漢寺の五百羅漢に関係する文書を見つけた。文書には1360年に完成し、落慶法要が営まれたことなどが記されていた。

(2014年3月8日朝刊15面)

中津市本耶馬溪町の羅漢寺にある五百羅漢像が、日本最古であることが調査で確かめられました。

①五百羅漢とは、何でしょう。

.....

.....

.....

.....

②1360年に完成し、日本最古であることは、どうして分かったのでしょうか。

.....

.....

.....

.....

③1360年前後はどんな時代だったか、調べてみよう。

.....

.....

.....

.....